

3 学生・生徒等の自殺者の増加

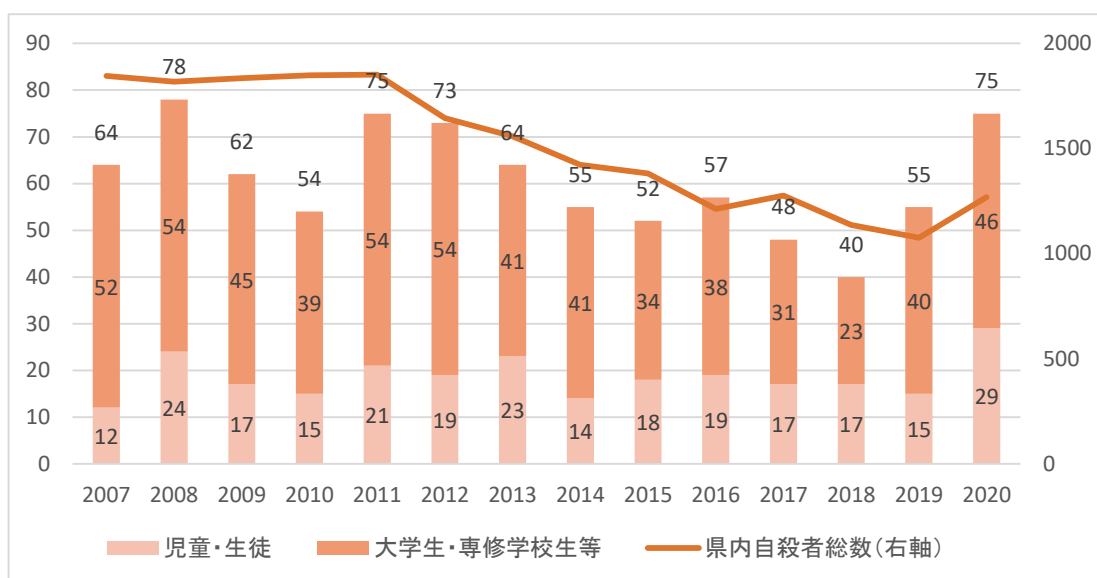
- 近年の学生・生徒等の自殺者は2018年に40人まで低下するなど減少傾向にあったが、翌2019年に15人増加して55人となり、2020年はさらに20人増加して75人となった。そこで、「学生・生徒等」の自殺者について、さらに詳細に調べた。

図表30-01

学生・生徒等の自殺者数(年推移 2007~2020年)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



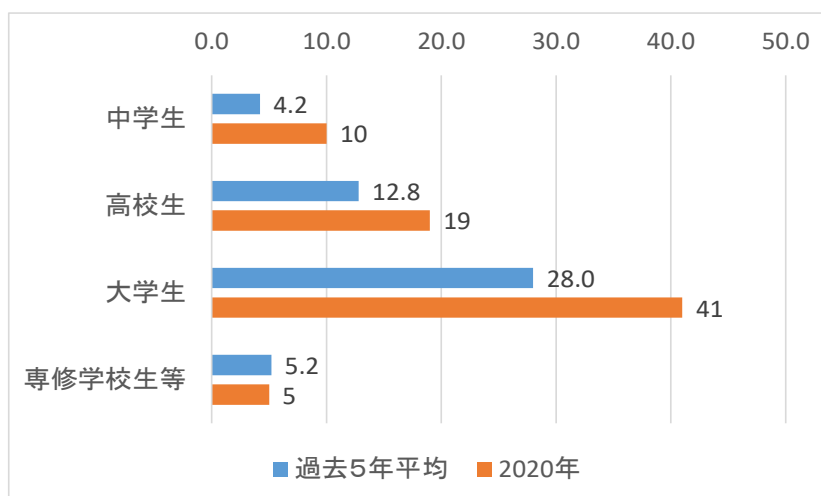
注)小学生、中学生及び高校生を「児童・生徒」としている。

図表30-02

学生・生徒等の小分類別自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



- 「学生・生徒等」は、「未就学児童」、「小学生」、「中学生」、「高校生」、「大学生」及び「専修学校生等」の6区分であるが、過去5年平均と自殺者数で比較すると、特に「大学生」の自殺が増加している。

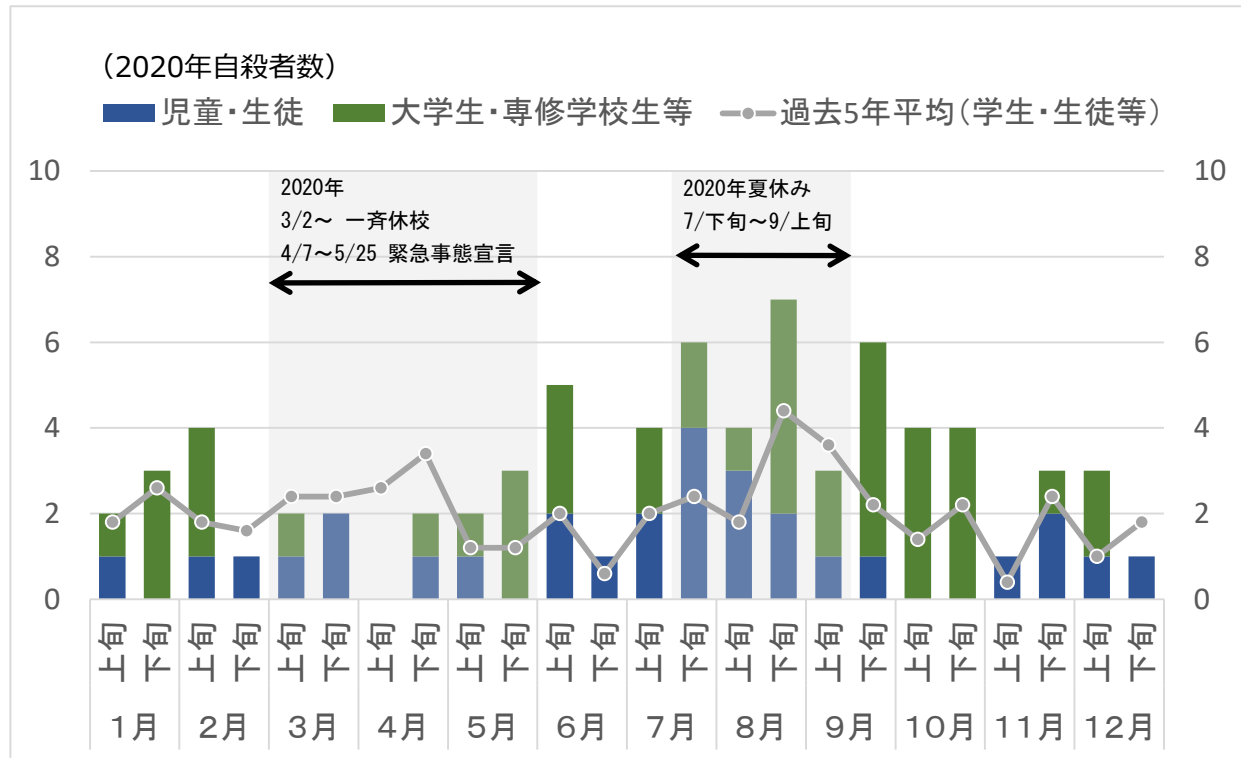
3 学生・生徒等の自殺者の増加

図表30-03

学生・生徒等の月別自殺者数(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 小学生、中学生及び高校生を「児童・生徒」としている。
自殺日で集計している。自殺日不詳は除外している。

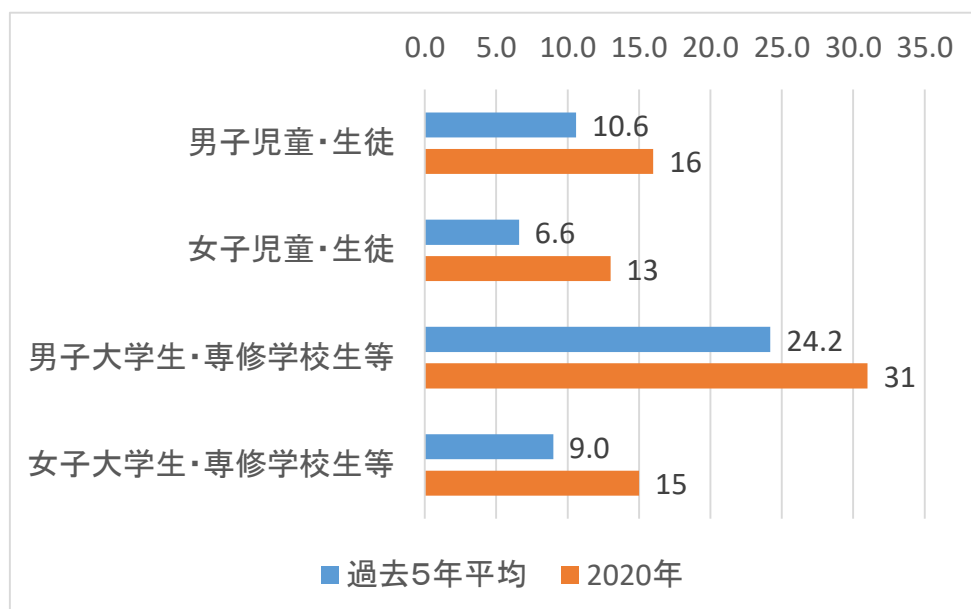
- 2020年の月別に「学生・生徒等」の自殺者数をみると、3月や4月は過去5年平均を下回ったが、5月上旬から概ね上回って推移した。特に、夏休み期間中から「10月」まで増加がみられた。
- 2020年中の動向としては、「児童・生徒」の自殺者数は、夏休み期間中を含む7月下旬及び8月上旬において、他の時期よりも増加しており、また、「大学生・専修学校生等」の自殺者数は、8月下旬から10月下旬にかけて、他の時期よりも増加している。

図表30-04

学生・生徒等の男女別自殺者数(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	過去5年平均	2020年	増減数	増減率
男子児童・生徒	10.6	16	5.4	51%
女子児童・生徒	6.6	13	6.4	97%
男子大学生・専修学校生等	24.2	31	6.8	28%
女子大学生・専修学校生等	9.0	15	6.0	67%

注)小学生、中学生及び高校生を児童・生徒とし、大学生と専修学校生等をあわせて区分している。

- 男女別で2020年の自殺者数を過去5年平均と比較すると、すべての区分で増加している。
- 増加率でみると、「女子児童・生徒」が97%の増加で最も多く、次いで「女子大学生・専修学校生等」が67%の増加となった。ただし、実数が小さいため、小数の増減で増減率が大きく変化することに留意する必要がある。

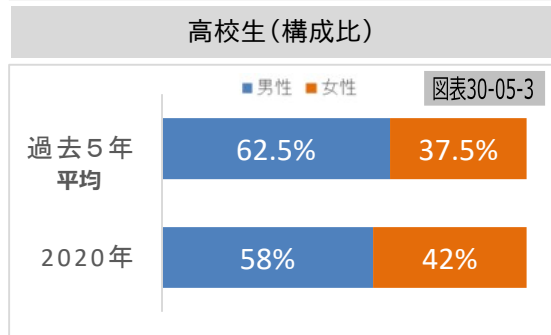
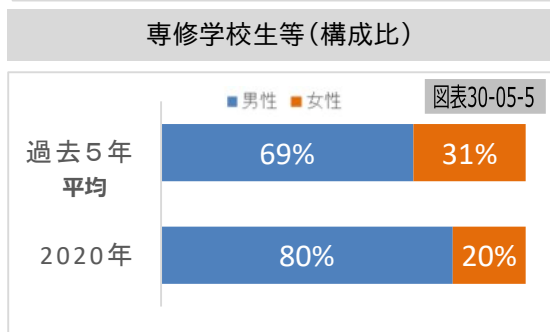
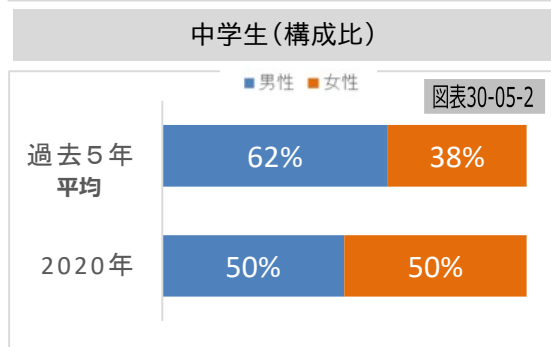
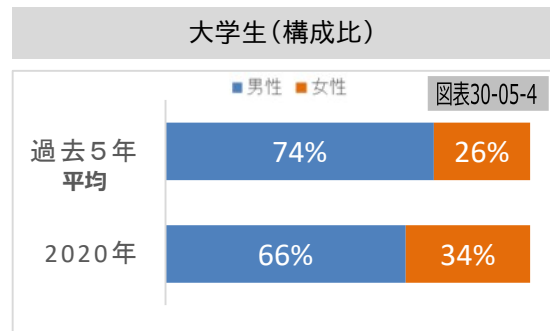
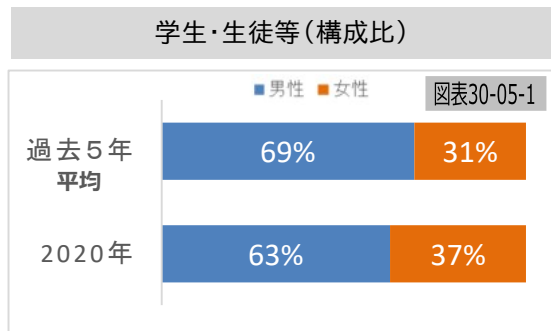
3 学生・生徒等の自殺者の増加

図表30-05

学生・生徒等自殺者数の男女構成比の比較(2020年と過去5年平均との比較)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



- 2020年の「学生・生徒等」の男女別構成比を過去5年平均と比較すると、女性の比率が31%から37%へと6ポイント上昇した(図表30-05-1)。
- また、女性の比率が、「中学生」が12ポイント、「高校生」が4.5ポイント、「大学生」が8ポイント上昇した(図表30-05-2,図表30-05-3,図表30-05-4)。

図表30-06

参考 過去10年累計 学生・生徒等の年齢別自殺者数(2011年~2020年)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

職業等	11歳以下	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳以上
小学生	4													
中学生		3	17	20	12									
高校生					20	30	49	30	4	3				
大学生								18	35	58	84	60	31	51
専修学校生等								11	9	12	4	5	4	19

注)年齢不詳は除外している。

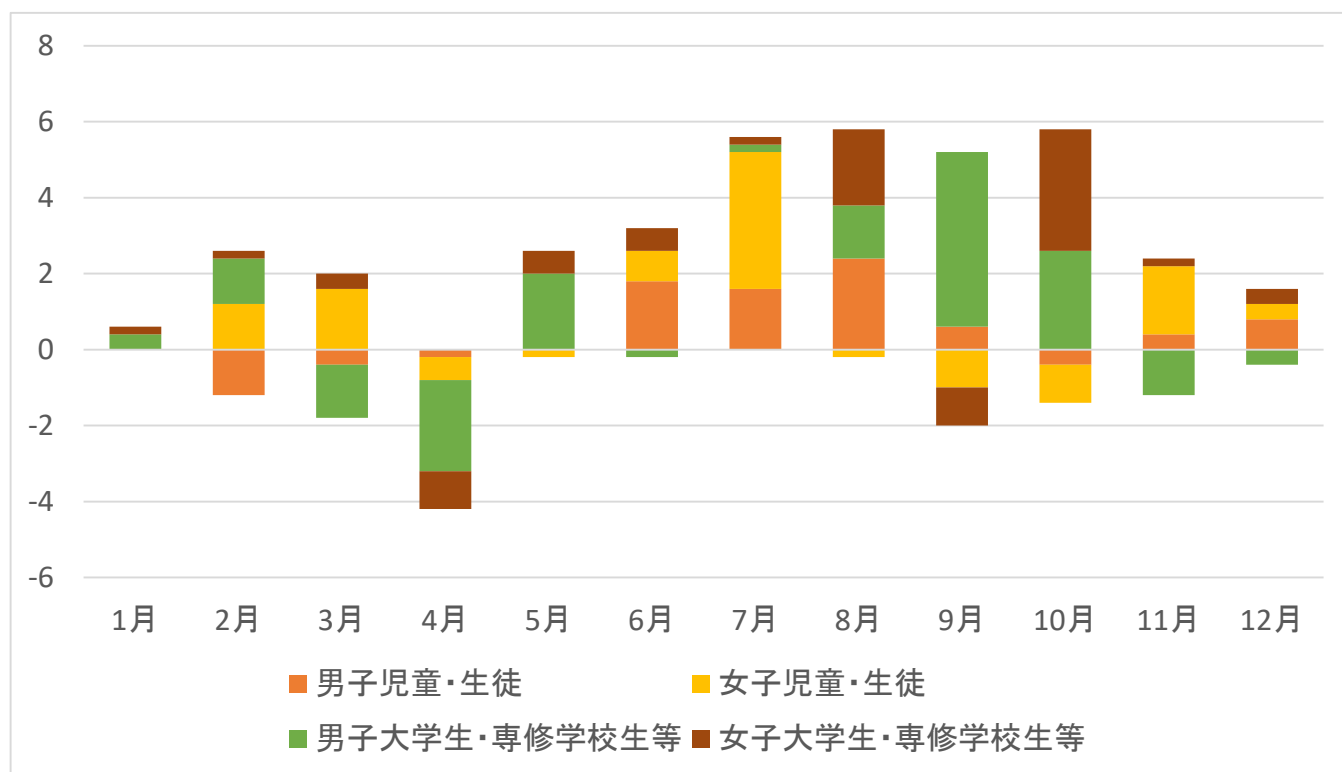
- 参考として過去10年の年齢別自殺者数累計をみると、中学生、高校生、大学生ともに、学齢が高い年齢(高学年)ほど自殺者数が多くなっている。

図表30-07

学生・生徒等の男女別、月別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
男子児童・生徒	0	-1.2	-0.4	-0.2	0	1.8	1.6	2.4	0.6	-0.4	0.4	0.8
女子児童・生徒	0	1.2	1.6	-0.6	-0.2	0.8	3.6	-0.2	-1	-1	1.8	0.4
男子大学生・専修学校生等	0.4	1.2	-1.4	-2.4	2	-0.2	0.2	1.4	4.6	2.6	-1.2	-0.4
女子大学生・専修学校生等	0.2	0.2	0.4	-1	0.6	0.6	0.2	2	-1	3.2	0.2	0.4

- 月別で2020年の「学生・生徒等」の自殺者数を過去5年平均と比較すると、「男子児童・生徒」は「8月」が最も多く、2.4人の増加、「女子児童・生徒」は「7月」が最も多く、3.6人の増加となった。
- 「男子大学生・専修学校生等」は、「9月」の4.6人増が最も多く、「女子大学生・専修学校生等」は、「10月」の3.2人増が最も多かった。

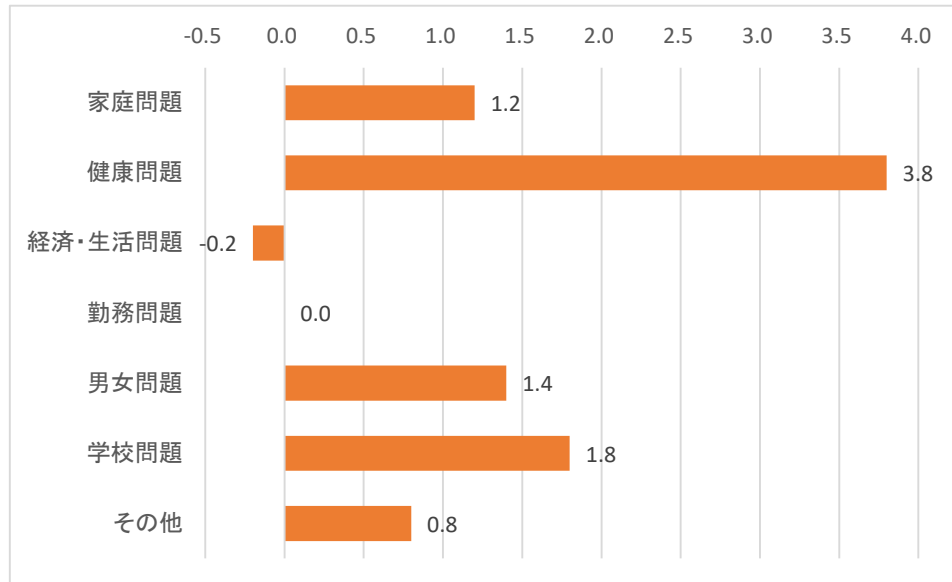
3 学生・生徒等の自殺者の増加

図表30-08

児童・生徒の原因・動機別自殺者数の増減(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



児童・生徒	過去5年平均	2020年	増減	増減率
家庭問題	3.8	5	1.2	32%
健康問題	2.2	6	3.8	173%
経済・生活問題	0.2	0	-0.2	-100%
勤務問題	0.0	0	0.0	-
男女問題	0.6	2	1.4	233%
学校問題	7.2	9	1.8	25%
その他	2.2	3	0.8	36%

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

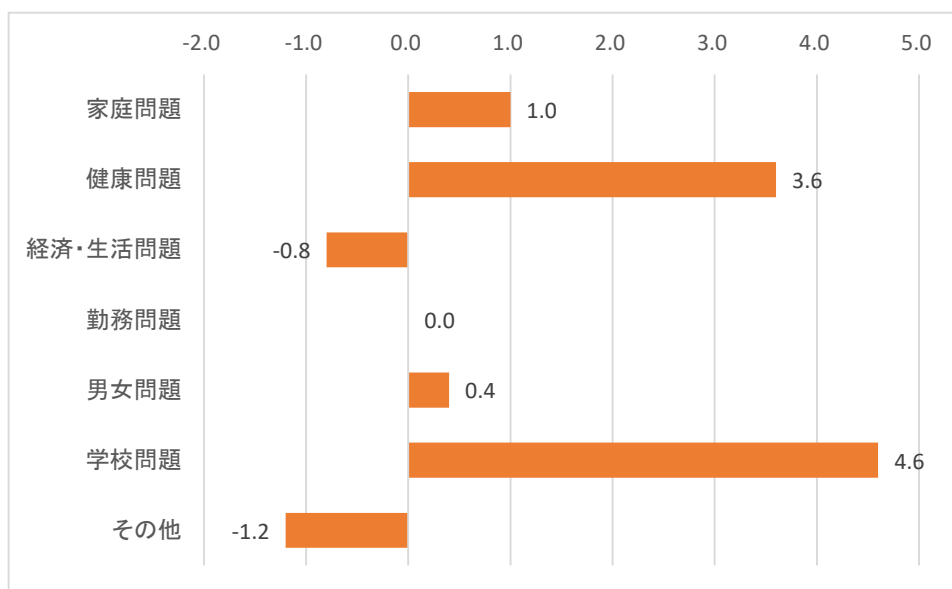
- 2020年の「児童・生徒」の原因・動機別自殺者数では、「学校問題」が最も多く、次いで「健康問題」、「家庭問題」の順となった。
- また、過去5年平均と比較すると、「健康問題」が3.8人増で最も多く、次いで「学校問題」が1.8人増加した。

図表30-09

大学生・専修学校生等の原因・動機別自殺者数の増減(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



大学生・専修学校生等	過去5年平均	2020年	増減	増減率
家庭問題	3.0	4	1.0	33%
健康問題	6.4	10	3.6	56%
経済・生活問題	2.8	2	-0.8	-29%
勤務問題	0.0	0	0.0	-
男女問題	2.6	3	0.4	15%
学校問題	11.4	16	4.6	40%
その他	5.2	4	-1.2	-23%

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 2020年の「大学生・専修学校生等」の原因・動機別自殺者数では、「学校問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「家庭問題」・「その他」の順となっている。
- また、過去5年平均と比較すると、「学校問題」が4.6人増で最も多く、次いで「健康問題」が3.6人増加した。

3 学生・生徒等の自殺者の増加

図表30-10

原因・動機(小分類)別学生・生徒等自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

区分:学生・生徒等 男性				図表30-10-1	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=36	n=37	n=148	
1	その他進路に関する悩み	25.0%	13.5%	14.2%	学校
2	親子関係の不和	11.1%	5.4%	4.1%	家庭
2	学業不振	11.1%	21.6%	17.6%	学校
4	病気の悩み・影響(うつ病)	8.3%	5.4%	5.4%	健康
4	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	8.3%	8.1%	5.4%	健康
4	失恋	8.3%	5.4%	2.0%	男女
7	家族からのしつけ・叱責	5.6%	0.0%	2.0%	家庭

区分:学生・生徒等 女性				図表30-10-2	
2020年の構成比の上位を表示		2020	2019	過去5年	大分類
順位	原因動機小分類	n=28	n=12	n=90	
1	病気の悩み・影響(うつ病)	14.3%	0.0%	11.1%	健康
2	学業不振	10.7%	8.3%	5.6%	学校
2	孤独感	10.7%	0.0%	3.3%	その他
4	病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	7.1%	8.3%	3.3%	健康
4	その他進路に関する悩み	7.1%	0.0%	10.0%	学校
4	その他学友との不和	7.1%	16.7%	7.8%	学校
4	その他問題その他	7.1%	25.0%	13.3%	その他

注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 「学生・生徒等」の原因・動機別自殺者数を小分類で見ると、男性は、「その他進路に関する悩み」が25.0%で比率が最も高く、次いで、「親子関係の不和」及び「学業不振」の11.1%の順となった。また、「その他進路に関する悩み」、「親子関係の不和」は、過去5年平均よりも比率が高い(図表30-10-1)。
- 女性は、「病気の悩み・影響(うつ病)」が14.3%で最も高く、次いで、「学業不振」及び「孤独感」の10.7%の順となった。また、これらはいずれも過去5年平均よりも比率が高い(図表30-10-2)。

学生・生徒等の自殺の増加まとめ

- 「学生・生徒等」の自殺者は、2012年以降減少傾向となり、2018年は40人まで減少したが、2019年以降増加し、2020年は75人となった。
- 過去5年平均と比較して、2020年は、「児童・生徒」「大学生・専修学校生等」のいずれも、男女とも増加となった。増加率の多い順では、「女子児童・生徒」、「女子大学生・専修学校生等」、「男子児童・生徒」、「男子大学生・専修学校生等」であり、女性の方が男性よりも増加率が高かった。
- また、男女構成比をみると、過去5年平均と比較して、女性の比率が6ポイント上昇し、37%となった。女性の比率は特に、「中学生」が12ポイントと最も多く上昇し、次いで、「大学生」が8ポイント、「高校生」が4.5ポイント上昇した。
- 月別自殺者数の状況では、「児童・生徒」は、夏休み期間中を含む7月下旬及び8月上旬において、他の時期より増加した。また、過去5年平均と比較して、「男子児童・生徒」は「8月」が、「女子児童・生徒」は「7月」が最も多く増加した。国の平成27年版自殺対策白書では、18歳以下の自殺について、学校の長期休業明け直後に自殺者が増える傾向にある旨指摘している。なお、2020年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国一斉の臨時休校が3月2日から5月下旬まで行われ、その影響で夏休み期間が変更となるなど、学校運営の状況が例年と異なった状況がある。
- 「大学生・専修学校生等」は、8月下旬から10月下旬にかけて、他の時期より増加した。過去5年平均と比較して、「男子大学生・専修学校生等」は「9月」が、「女子大学生・専修学校生等」は「10月」が最も増加した。
- 「児童・生徒」の原因・動機別では、2020年では「学校問題」が最も多く、次いで、「健康問題」、「家庭問題」の順であり、過去5年平均と比較すると、「健康問題」が最も多く増加し、次いで、「学校問題」の順であった。
- 「大学生・専修学校生等」の原因・動機別では、2020年では「学校問題」が最も多く、次いで「健康問題」・「家庭問題」、「その他」の順であり、過去5年平均と比較すると、「学校問題」が最も多く増加し、次いで「健康問題」の順であった。
- 「学生・生徒等」の原因・動機の小分類では、男性は「その他進路に関する悩み」、「親子関係の不和」、「学業不振」が、女性は「病気の悩み・影響(うつ病)」、「学業不振」、「孤独感」が上位を占めた。